



国際園芸アカデミー有識者会議 報告書

令和3年3月





目 次

I	背景・趣旨	．．．．．	1
II	検討経過	．．．．．	1
III	検討結果	．．．．．	2
1	国際園芸アカデミーの教育改革		
	（1）教育体制の充実		
	（2）経営感覚に優れた人材育成		
	（3）社会性と職業意識を身に付けた即戦力となる人材育成		
	（4）園芸・緑化技術の習得及び向上		
	（5）社会人教育・生涯学習の充実		
2	国際園芸アカデミーの教育環境の充実	．．．．．	4
	（1）花フェスタ記念公園の活用		
	（2）校内フィールドの充実		
	（3）校外フィールドの確保		
3	花と緑の産業振興	．．．．．	5
	（1）「(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」の設置		
	（2）「(仮称)清流の国ぎふ花と緑の振興センター」の設置		
4	今後の検討課題	．．．．．	7
	<参考資料>	．．．．．	8
1	会議の開催経過		
2	国際園芸アカデミー有識者会議 委員名簿		
3	会議資料		

I 背景・趣旨

国際園芸アカデミー（以下、「アカデミー」という。）は、開学以来、花と緑に関する専門的かつ総合的な知識及び技術を有する人材を育成するため、実践重視の教育を行ってきた。

開学から16年が経過し、花と緑の産業を取り巻く状況が大きく変化する中、少子高齢化に伴う人材不足や、花きの需要低迷による市場規模の縮小などにより、厳しい経営環境に置かれる花と緑の業界からは、情勢の変化に機動的に対応できる担い手の育成が強く求められるようになった。

こうした状況を踏まえ、令和元年度、多方面の有識者で構成する「国際園芸アカデミー有識者会議」（以下、「有識者会議」という）を設置し、アカデミーのあるべき姿を議論し、改革の方向性を検討することとなった。

その後、令和2年には新型コロナウイルスが世界規模で感染拡大し、人々の日常を一変させ、花と緑の産業にも大きな影響を与えた。また、同年7月には、岐阜県が「SDGs未来都市」に認定され、こうした状況の変化への対応についても加味することとなった。

さらに、令和9年には横浜において「花の万博」である「国際園芸博覧会」の開催が予定されており、これを契機とした新たな需要拡大や、観光産業の活性化、花や緑を通じた健康と福祉の増進などの追い風を逃さず取り込むべきとの共通認識のもと、各種対策を取りまとめた。

II 検討経過

有識者会議において協議を進める中、アカデミーの「教育の充実」と「花と緑の産業の振興」を車の両輪として考えるべきとの議論となり、これら2つの方向性で検討を進めていくこととなった。

その検討主体については、まず、アカデミーの「教育の充実」のうち、「教育改革」方針や方針に基づく具体的取り組みについての検討は、アカデミーにおいて行うこととした。

また、アカデミーの施設や設備、機械などの「教育環境の充実」と、業界の壁を越えた産学金官の連携による「花と緑の産業振興」については、有識者会議にそれぞれ「教育環境の充実WG」と「花と緑の振興センターWG」の2つのWGを設置し、検討を行った。

<検討主体>

アカデミーの教育改革・・・・・・・・アカデミー

アカデミーの教育環境の充実・・・・教育環境の充実WG

花と緑の産業の振興・・・・・・・・花と緑の振興センターWG

こうした体制のもと、約1年2カ月の間に、5回の有識者会議、各2回(計4回)のWGでの検討を経て、次の「検討結果」に記す結論に至った。

なお、この「検討結果」は、結論の要旨をまとめたものであり、詳細については別添、会議資料を参照されたい。

Ⅲ 検討結果

1 国際園芸アカデミーの教育改革

アカデミーの基本理念に基づく人材育成に向けた3つの方針(「卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程の編成・実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)」「入学の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)」を次のとおり定める。

ディプロマ・ポリシー

幅広い専門知識と優れた経営感覚、問題解決能力等を身に付けた学生に対して卒業を認定。

カリキュラム・ポリシー

基礎から専門分野に至るまで、知識と技能を確実に取得した人材を育成するため、講義と演習や実習を体系的に組み合わせた教育課程を編成。

アドミッション・ポリシー

高等学校等の学習を通じ、目的意識を持ち、学修意欲が高く、基本的な礼儀や生活習慣を身につけた学生を受け入れる。

その上で、これら3つの方針に従い、花と緑の産業に直結した教育を実践するため、下記、5つの教育改革に取り組むべきである。

なお、想定されるスケジュールは末尾に記載のとおりとする。

(1) 教育体制の充実

教員の意識改革を進めるため、企業や大学から講師を招聘するとともに、アカデミー教員の企業や大学等への派遣研修を行うことなどにより、教育の質を高める。

また、企業との連携を強化するため、教員の企業研修を通じて業界とのネットワークを構築する。

(2) 経営感覚に優れた人材育成

経営手法を習得させるため、起業家や経営者の講義を新たに設け、多角的な学びの機会を創出する。

商品企画力を醸成するため、調査・企画・販売の3つの工程を学ぶ授業を体系化し、商品プロデュース力を強化する。

(3) 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材の育成

社会に通用する人材を育成するため、花フェスタ記念公園における実践的な授業(Ⅲ-2-(1)参照)の拡充や、自治体と連携した公園整備への学生の参画など、地域社会との繋がりを重視した新たな取り組みを強化していく。

(4) 園芸・緑化技術の習得及び向上

担い手の技術力の向上については、新たにコンソーシアム企業(Ⅲ-3-(1)参照)において最新技術を習得する研修の機会を設けるほか、卒業制作時間を減らし、生産プロジェクト実習等の実践的授業の拡充し、技術力を強化していく。

(5) 社会人教育・生涯学習の充実

○社会人教育(企業向け講座)

社会人教育の充実については、担い手育成支援の拠点である「(仮称)清流の国ぎふ花と緑の振興センター」(以下、「花と緑の振興センター」という。)(Ⅲ-3-(2)参照)と、様々な業界の企業等が参画する

「(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」(以下、「コンソーシアム」という。)(Ⅲ-3-(1)参照)が連携し、アカデミーの卒業生の再教育を支援するほか、アカデミーでは、公開講座に社会人を対象とした国家資格取得のための実習を新設するとともに、社会人学び直しの場としての科目等履修生制度等の活用を企業等に呼びかけていく。

○生涯学習(一般人向け講座)

生涯学習の充実については、市町村と連携した市民向け講座を開催するなど、親子や夫婦で楽しめる講座の充実を図っていく。

【想定スケジュール】 可能なものから速やかに実施

2 国際園芸アカデミーの教育環境の充実

アカデミーにおいて、花と緑の産業に直結した実践的な授業を行う上で必要となる施設、設備、機械等について、花フェスタ記念公園、校内、校外(自治体等)の3つのフィールド毎に次のとおり実施するべきである。

なお、想定スケジュールは末尾に記載のとおりとする。

(1) 花フェスタ記念公園の活用

アカデミーから7 kmに位置する花フェスタ記念公園は、約80 haの広大な敷地面積と豊富な植生を持ち、特にバラは約6000品種、2万株が植栽されており、世界最大級のバラ園として年間38万人が来園する。

こうした花フェスタ記念公園をアカデミーの実践教育のフィールドとして有効に活用するため、公園内にアカデミーのサテライト機能を有する施設等を整備し、実践的な教育を行う。

○学生の作品の展示・販売ができる直売所・交流施設の整備

(期待する教育効果)

- コミュニケーション能力、マーケティング能力の向上
- 消費者ニーズを捉えた作品作りによる実践力の強化
- 装飾作品展示・発表会の開催による学生のモチベーション向上
- 装飾技能研鑽による職業人としての資質向上

○実習フィールドに付帯する座学が行える実習棟の整備

(期待する教育効果)

- 実習と座学の効率的な実施による学習効率の向上
- 最新設備導入による業界が求める人材の育成

(2) 校内フィールドの充実

スマート農業技術など、最新技術が学べる機械や設備などを導入することで、生徒たちがより高度な技術を習得できる環境を整備するとともに、先進的農業が学べる学校としての魅力度向上に繋げる。

(3) 校外フィールドの確保

○実践的技術の習得

これまで校外においては企業での学生のインターンシップを実施するなど、実践重視の教育を進めてきた。今後はさらに、コンソーシアム企業等との連携による企業研修の実施や、自治体や企業との連携によって新たなフィールドを確保し、花と緑の産業に直結した実践技術の習得を強化する。

○地域社会との連携

協定を締結した自治体が行う花と緑のまちづくりに、学生も積極的に参加し、学生の提案や技術をまちづくりに活かすなど、地域社会との連携強化を図る。

【想定スケジュール(機械・施設等)】

	R3	R4	R5	R6
機械・設備	計画策定	導入		
施設	基本構想	基本設計 実施設計	整備	供用開始

3 花と緑の産業振興

花き産業振興とそのために必要な花の利活用及び担い手の育成を図るため、業界の壁を越え異業種業界と連携する「(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」及び企業と連携した担い手育成と花と緑の産業振興の拠点としての「(仮称)清流の国ぎふ花と緑の振興センター」を次のとおり設置し、事業を展開すべきである。

なお、想定スケジュールは末尾に記載のとおりとする。

(1) 「(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」の設置

<目的>

業界の壁を越え産学金官が連携し、それぞれが得意とする技術や知見を融合させることで、花と緑に関する新たな商品開発、活用方法の開拓、情報発信等を行い、花と緑の産業振興を図る。

<構成>

コンソーシアムの構成メンバーについては、現在の清流の国ぎふ花き戦略会議のメンバーが主たる構成員となり、生産者、造園関連団体、メディア、大学等教育機関、様々な業界の企業、研究機関、消費者、自治体、金融機関等を賛助会員として加える形を基本とする。

<事業実施例>

1 行政主体の事業

行政が主体となって次のことに取組む

- ・花き文化団体と連携し、花のある暮らしの浸透を図る「花きの文化振興」
- ・市町村等と連携し、SDGsの理念や考え方に沿った未来を見据えた「花と緑のあふれる住みよいまちづくり」
- ・SNS等を活用して県産花きの魅力を発信する「広報・情報発信」
- ・園芸を活用した「農福連携」の推進
- ・移住定住部門と連携した県外出身者の「移住定住」も見据えた就農・就業を支援

2 企業、大学等教育機関が主体の事業

企業、大学等教育機関が主体となり、テーマごとにワーキンググループを設けて次のことに取組む

- ・美濃焼や美濃和紙など地場産業とコラボした岐阜県にしかない商品づくりによる「新たな需要開拓」
- ・多様なニーズに応じたマーケットインの売れる商品づくりや、ウィズコロナ・アフターコロナ時代にも対応したSNS等の活用やDXを導入した新たな流通・販売体制の構築
- ・企業や大学、生産者等が連携して「研究開発」を行うなど、SDGsの理念や考え方に沿ったパートナーシップの充実による課題解決

(2) 「(仮称)清流の国ぎふ花と緑の振興センター」の設置

<目的>

企業や大学等教育機関と連携して、花と緑の産業の担い手育成と産業振興を目的に「花と緑の振興センター」を県が設置する。

<機能>

花と緑の振興センターの機能としては、センター内に整備する担い手育成・支援施設において、花と緑の業界に資する技術力と経営能力の向上に向けた研修を行うとともに(1)のコンソーシアムの事務局を担う。

<事業実施例>

担い手育成支援施設においては、当面、次の事業を実施する。

- ・若手生産者の技術力向上研修の実施
- ・経営管理能力向上のための研修の実施
- ・新規就農希望者や定年帰農者の技術習得研修の実施
- ・国際園芸アカデミー卒業生の就農研修などを実施
- ・コンソーシアム参画企業の研究や実証試験の場として活用
- ・アフターコロナ時代にも対応したDX(デジタルトランスフォーメーション)を導入した「スマート園芸」の研究や研修の実施

【想定スケジュール】

	R3	R4	R5
コンソーシアム	設置		
花と緑の振興センター	設置準備	設置	
担い手育成支援施設	整備計画策定	設計・整備	供用開始

4 今後の検討課題

※検討過程において出された意見を今後の検討課題として次のとおり整理した。

当面実施すべき事項としては以上のとおりとするが、アカデミーの教育改革及び教育環境の充実については、前述の内容を一定期間実施し、その効果を検証した上で更なるステップとして次の事項を検討することが望ましい。

- (1) アカデミーの花フェスタ記念公園への全面移転
- (2) 花フェスタ記念公園を中核とした社会人教育、生涯学習機能の展開

1 会議の開催経過

時 期	内 容
令和元年度 10月16日	第1回有識者会議 【議事】 ○国際園芸アカデミーの在り方と運営向上について ・国際園芸アカデミーの現状と課題
12月24日	第2回有識者会議 【議事】 ○国際園芸アカデミーの目指す姿について ・国際園芸アカデミー開学から現在までの変遷と検証について ・国際園芸アカデミーの優位性と向上を図る事項について ・国際園芸アカデミー ～改革素案～
3月26日	第3回有識者会議 【議事】 ○各委員の意見と今後の検討の方向性について ○基本コンセプト（たたき台）
令和2年度 7月22日	第4回有識者会議 【議事】 ○これまでの主な論点と今後の検討の方向性 ○今後の検討の方向性と進め方について
9月3日	第1回 花と緑の振興センターWG 【議事】 ○花と緑の振興センターについて 第1回 教育環境の充実WG 【議事】 ○国際園芸アカデミーの実習フィールドの充実について
10月15日	第2回 花と緑の振興センターWG 【議事】 ○花と緑の振興センターについて 第2回 教育環境の充実WG 【議事】 ○国際園芸アカデミーの実習フィールドの充実について
12月23日	第5回有識者会議 【議事】 ○ワーキンググループの検討結果について ・花と緑の振興センターWG ・教育環境の充実WG ○国際園芸アカデミーの教育内容の充実について ○有識者会議取りまとめ（総論）（案）について

2 国際園芸アカデミー有識者会議 委員名簿

◇委員

分野	氏名	所属・役職
花き全国協議会	磯村 信夫	日本花き振興協議会 会長
花き生産	加藤 孝義 (WG座長)	清流の国ぎふ花き戦略会議 会長
花き生産	齋藤 志穂	麓farm共同代表
花き装飾	柿本 亜矢	(公社)日本フラワーデザイナー協会岐阜県支部長
造園	橘 俊光 (WG座長)	(一社)日本公園緑地協会常務理事 兼 公園緑地研究所 副所長
花き流通	松尾 真吾	岐阜生花市場協同組合 理事長
園芸療法	澤田 みどり	NPO法人日本園芸療法研修会代表理事
農業教育	谷 基	岐阜県高等学校農業校長会 会長
農業団体	櫻井 宏	岐阜県農業協同組合中央会 会長
学識経験	上手 繁雄	前岐阜県副知事
	上田 善弘	花フェスタ記念公園 理事
	涌井 史郎 (有識者会議座長)	東京都市大学特別教授

◇オブザーバー

学識経験	小栗 達弘 (WG委員)	株式会社岐阜造園 代表取締役会長
	デュアー貴子 (WG委員)	東海学院大学 健康福祉部学部長
都市建築	小池 貴久	都市建築部都市公園課 花フェスタ記念公園企画推進室長
農政	桂川 直人	農業大学校 校長
農政	今西 良共	国際園芸アカデミー 学長

3 会議資料

- 1 総括
- 2 全体構想
- 3 国際園芸アカデミーの教育改革
 - (1) 国際園芸アカデミーの3つの方針
 - (2) 国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応
 - (3) 国際園芸アカデミーの教育内容の改革（全体図）
- 4 国際園芸課アカデミー教育環境の充実について
 - (1) フィールド別教育環境の充実イメージ
 - (2) 花フェスタ記念公園のフィールド活用例
 - (3) ロードマップ イメージ
- 5 (仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアムの設置
 - (1) 機能・事業展開のイメージ
- 6 (仮称)清流の国ぎふ花と緑の振興センター・(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム
 - (1) 設置・運営体制
 - (2) ロードマップ イメージ